

★今週の聖句

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。
ヨハネによる福音書 15:12

★ねらい

- ① 平和を覚え、平和を求める主日です。戦争の記憶を語り継ぐこと・耳を傾けることにより、平和への思いを励まされたいものです。
- ② 被害性と共に加害性も含めて考え、平和の尊さを自分の事柄として確認することが大切であると思います。
- ③ 真の平和は、キリストの十字架による神の愛によってもたらされ、その愛を受けた者が平和を造る者として用いられるという、神の愛とそれに対する応答とが平和への道であることを覚えることが出来ればよいと思います。

★説教作成のヒント

- ・福音書、使徒書、旧約それぞれのテキストで上記のねらいを念頭においたメッセージの準備が可能であり、また子どもたちが今週の聖句を味わうことに結びつけられると思います。
- ・福音書のテキストは、イエスの「まことのぶどうの木」の説教の中におかれています。「あなたがたは枝である。」(5節)、「実を結ぶ」(2、4、5節)と語られているのは、その背景に危機に瀕した初代教会の状況があります。一時、多くの人がクリスチャンになったけれども、ユダヤ正統派からの異端宣告によって、多くの人が脱落していきました。危機的状況にあっても、しっかりとつながっていること(「とどまる」9節)が求められ、つながっていれば自ずと実を結ぶのです。実を結ぶように努力をする必要はありません。愛の行為がキリストとの結びつきを強めるのではなく、キリストにつながっていることが、実り(そのひとつが平和)を生みます。

★豆知識

ミカ書の「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。」(並行イザヤ書)は、ニューヨークの国連本部の壁に刻まれています。第二次世界大戦を経験し、もう戦争はしないとの決意を込めて、このみ言葉が刻まれたのでしょうか。実際はどうでしょうか。国々は何につながっているのでしょうか。

★説教

ある年のこと、A国とB国は戦争をしていました。クリスマスの寒い夜も、家に帰り家族と共にクリスマス礼拝に出かけることは許されず、兵士達は穴を掘って身を隠し、息を殺して上官の命令を待ちました。多くの若い兵士達はそれぞれに、どうして戦争をしなければならないのかわかりませんでした。王様の命令に従って戦争に勝つことが自分と家族が幸せに暮らすためには必要なのだと聞かされてきました。ケンカや争いが好きで兵士になったわけではありません。友だちと遊んだり、家族と食事をしたり、誰かを好きになったり、夢を持ったり、勉強をしたり、普通の暮らしをしていましたが、戦争になれば、「どうし

て？」という疑問を持たずに従うことしか許されませんでした。やがて戦いの相手を倒したり、もともとその場所に住んでいる人たちにも銃を見せるだけで何でも言うことを聞いてくれることを誇らしく思うこともありました。

戦争はどのような結果になっても、それで満足したり、嬉しく思う人は殆どおらず、悲しみや恐れを抱かせるのですが、それをしているときは、してはいけないことをしているという気持ちよりも、自分は正しいことをしているという気持ちになりがちです。また、もしかしたら、これは間違っているかもしれないという思いがわき上がって来たとしても、みんなと違う気持ちを持つことはいけないことだと教えられていました。

クリスマスの夜、兵士達はそれぞれに家族を思い出しながら、上官の命令を待っていました。どれほどの時が経ったのでしょうか。不意にささやくような声で聞き覚えのあるメロディが聞こえてきました。誰かがクリスマスの歌を歌っているのです。B国の言葉です。でもこの歌はA国でもよく知られています。戦場の張りつめた空気がふっと緩みました。A国のひとりの兵士は遠くから聞こえてくるクリスマスの歌に自分の国の言葉を重ねて歌いました。敵同士ふたつの国の言葉で同じ歌が歌われたのです。その声はやがて広がっていき、寒いクリスマスの夜の空に賛美歌が響きました。しばらくして兵士達は身を隠していた穴から出てきて、わずかな食糧を分け合い、歌を歌ってクリスマスを祝いました。言葉は通じませんが、一人の救い主と一緒に讃美し、一緒に見上げることに言葉はいらず、武器を置いてお互いの家族の写真を見せ合い、まるで戦場とは思えない穏やかな空気が流れました。

突然、遠くで上官の命令を知らせる笛の音が聞こえてきました。穏やかな空気は一瞬にして凍りつき、兵士達は急いで武器を握りしめて穴に隠れました。攻撃が開始されるのです。

穴の中で息をひそめている兵士達は、先程の夢のようなひと時を思い出していました。それぞれの国の王様に従って敵を倒すことが幸せにつながると思っていたけれど、本当にそうなのだろうか。先程の、救い主キリストの誕生を祝う賛美歌を歌っているときは、敵も味方もなく、本当に幸せな気持ちだったのではないかと。

今日は平和の日です。残念なことです。戦ったり争ったりすることはこの地球上で途切れることなく続いています。この国でも戦争をしていた時があり、たくさんの人が殺され、またたくさんの人を殺しました。戦争はいつも、お互いに自分は正しいのだと考え、違う考えや立場を邪魔者扱いすることで始まります。でも、イエスさまは言われます。「わたしの愛にとどまりなさい」と。自分とは違う考えを持っている人であっても、心から大切に思うことが大切です。そしてその力はイエスさまからいただくことができます。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」イエスさまは、私たちの心や行動が弱く、他の人を大切にするよりも自分だけを大切にしてしまうことを知っておられます。けれども、とっとも悲しみながらもそれを許して、愛してくださるのです。それはイエスさまの愛によって、私たちが平和のための道具とし、他の人を大切にすることに挑戦してほしいと願ってくださっているからなのです。

★分級への展開

さんびしよ

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

77番

改訂版34番

やってみよう

平和を願って、礼拝をしましょう。

- ・床に、輪になって座る。
- ・子ども達の輪の中央に、小さなろうそくをいくつか使って円形になるように並べて置く。
(前奏の間にろうそくを灯す。)

■前奏

■讃美歌 こどもさんびか 48番 / 改訂版 5番 こどもをまねく

■交読詩編 (詩編 133 編より)

(司式者) みよ、 きょうだいが ともにすわっている。

(会衆) なんというめぐみ、 なんというよろこび。

(司式者) シオンで、 主は ふこくされた

(会衆) しゆくふくと、 とこしえのいのちを。

■聖書朗読

■お話

■平和の祈り (祈りの内容は、それぞれのCSでも考えてみましょう)

(会衆) 主の平和がありますように

(司式者) 戦争や災害で体や心が傷ついている人のために祈ります

(会衆) 主の平和がありますように

(司式者) 飢えや病気で苦しんでいる人のために祈ります

(会衆) 主の平和がありますように

(司式者) さみしさや孤独をかかえている人のために祈ります

(会衆) 主の平和がありますように

■献金

■献金の讃美歌 こどもさんびか 17番 / 改訂版 24-1番 いまそなえる

■主の祈り

■祝福

■讃美歌 こどもさんびか 改訂版 34番 キリストのへいわ

■後奏

はなそう

□平和について話し合ってみましょう。

そして、その後で、「互いに愛し合う」ことは、人間にとって簡単なことでしょうか？また、あなたにとってはどうか？ということについて、話し合ってみましょう。

(話し合い例)・戦争を題材に書かれた絵本を読み聞かせて、感想を話し合う。

- ・今、世界でどんな場所でどんな戦争が起こっているのかを調べてみる。
 - ・日本と他のアジアの国に今でも残る、戦争の影響について調べてみる。
 - ・日本は平和な国か？という題で、話してみる。
- などなど・・・

□話し合いの後で、平和の木（ピースツリー）を作りましょう。

<材料> 模造紙 1枚、マジックペン、折り紙

<準備> (CSスタッフがあらかじめしておいてもいいし、子ども達がやってもいいですよ)

- ・模造紙に大きな木を一本描いておく。
- ・いろいろな色の折り紙を丸い形(または他の好きな形でもいいですよ)に切って、人数分用意しておく。

<作り方>

模造紙の木に、平和の木の实をならせましょう。

折り紙に、平和へのあなたの折りを書きます。(平和を絵に表して、描いてもいいですよ)

これが、平和の木の实です。これを、のりで木に貼り、平和の木(ピースツリー)を完成させましょう。

★今週の聖句

「天の国はからし種に似ている。」

マタイによる福音書 13:31

★ねらい

- ① 実際にある身近な材料を使って想像力をふくらませる。

★説教作成のヒント

- ・このたとえば、その植物の成長過程に注目するのではなく、たとえその発端がどんなに小さなものであっても、神の力によってその結末は大きなものになるという点に注目する。

★豆知識

「からし」…食用油をとる大切な植物であった。

「パン種」…ユダヤ教においては不浄のものとされていた（1コリ 5:7）。

イエスが神の国のたとえにこの「パン種」を用いたのは、彼がユダヤ教の人々から見て罪人と言われている人々と交わりを持ってことと関係するのかもしれない。

「3サトン」…1サトンは13.131リットル、3サトンは約40リットル。

これほどの大きな練り粉はもしかしたら祝祭用のものであったかもしれない。

★説教

今日の聖書には「天の国」についてのイエス様のたとえば話がのっていましたね。

では「天の国」って一体なんでしょう？ある人は、死んだ人がいくところと言います。またある人は、イエス様が再びこられた時に完成する新しい世界だという人もいます。その国が果たしてどこにあるのか？どれくらいの面積があるのか？何人ぐらいの人が住んでいるのか？私たちに知ることはできません。

でも、その国に行く方法や、その国がどんなところかについては、聖書のいろいろな箇所が私たちに教えてくれています。この『「からし種」と『パン種』のたとえ』の物語は「天の国」の大きさについてです。大きさといっても面積や人口のことではありません。天の国がどのように大きくなるか？その広がり方についてのお話しです。

さて、問題です。次の三つの種のどの種がからし種と同じぐらいの大きさでしょうか？

（梅干、かきの種（お菓子）、ごま、etc）

正解は3番のごまです。からし種は、このゴマと同じぐらいの大きさの種です。しかし、この種を植え、芽が出て成長すると、大きいものでは5メートルになるものもあります。こんな小さな、米粒よりも小さな種が、その何十倍、何百倍もの大きさに成長するのです。

さて、第二問。この中で「パン種」はどれでしょう？

(小麦粉、イースト、塩、etc)

これは見分けが付きませんでしたね、正解は2番です。

みなさんは、お家でパンを作ったことがありますか？パンを作るときはどんな材料を使いますか？そうですね、小麦粉と塩と水です。あと卵を使ったり、牛乳を使ったり、お砂糖を使ったり、作るパンによってちょっとづつ材料も変わります。けれど、どのパンも小麦粉と塩と水は必ず使います、そして、忘れてはならないのが「パン種、イースト」です。このパン種をいれることによって、ふっくらふわふわのパンが出来上がります。パン種にはパンを膨らませる力があるのです。

さてさて、イエス様は「天の国」は「からし種」や「パン種」に似ているとおっしゃいました。その広がり方、成長の仕方が「からし種」や「パン種」と似ているとおっしゃったのです。天の国は、はじめは「からし種」ほどの大きさだったとしても、成長すると、どんな国よりも大きくなり、すべての人がその国に住むことができる。天の国は、たとえ最初はどんなぺっしょんこのパンでも、天の国がそこに入ると、そのパンはふっくらおいしいパンになる。とおっしゃっているのです。

天の国とは何でしょうか？もしかすると、みなさんの心にあるイエス様を信じる力かもしれません。その力がはじめは本当にちっちゃくても、後で必ず成長して、立派な信じる力になるのかもしれない。もしかすると、教会のことをいっているのかもしれない。はじめはぺっしょんこでも、そこに神さまのパン種があるのだから、必ずふっくら豊かな教会になると言っているのかもしれない。もしかすると、もうすでに私たちの目に見えないところに天の国があって、いま「からし種」のように、ぐんぐん成長しているのかもしれない。

天の国がたとえ、どんなところにあって、どんな国でも、確かなことは、神様が必ず成長させてくださるということです。神さまを信じて、もしかしたら私たちの心の中にある、もしかしたら目の見えないところにある、天の国の成長を想像しながら、天の国を待ち望みましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

103番

改訂版58番

やってみよう

『からしだね』を見てみよう！

『からしのたね』ってどのくらいの大きさなの？どのくらい大きくなるのかなあ？

育てられるからしの種を手に入れるのは、ちょっとむずかしいみたいだけど、みんなの身近にある、『からしだね』を見てみよう。

<用意するもの>

粒マスタード（ビンでもチューブでもいいです）

みんなでひと粒ずつ手にのせてみよう。食べてもいいけど、からいよ！

『からし』は大きくなるけれど、木になるわけではなくて、2メートルぐらいの背の高い草になるそうです。

はなそう

天の国とは、神の国、神がおられる所、神が支配される国のことだと考えられます。イエスさまは、人々や弟子たちに天の国についてこのように繰り返しお話になりました。人々はどんな風を感じたのでしょうか？想像してみましよう。

主の祈りの中に「み国をきたらせたまえ」「み国がきますように」というお祈りが入っています。どうしてその祈りが入っているのでしょうか？

分からないときは、牧師さんに聞くなどして調べてみましょう。

★今週の聖句

「天の国は次のようにたとえられる。」

マタイによる福音書 13:44

★ねらい

- ① 天の国の「価値」について考える。
- ④ 天の国という宝の価値は、私たちの常識や思いを超えたものであることを知る。
- ⑤ そして、その宝は必ず見つかることを約束されている。

★説教作成のヒント

- ・自分たちの最も大切なものを思い浮かべて聖書を読む。
- ・説教には反映できなかったが、普通の宝探しと、天の国の宝探しとを対比させながら話を組み立ててもおもしろい。

★豆知識

「宝」…イスラエルの人々は、外国の侵略に何度もあったために、その際に財産を地中に隠したまま、当事者が元の場所に帰って来れなくなって忘れられた場合もあったと思われる。雇い人として日々その畑を耕していた人が偶然その宝を見つけると、自らの貧しさにも関わらず、持ち物を売り払って、その畑を自分のものとする。現代人の感覚では、そのようなことは合法的かという気もするが、ユダヤ人の解釈では見つけた人のものであったそうである。

★説教

今日の福音書にも「天の国」についてのイエス様のたとえ話が載っています。先週の日曜日に読んだマタイによる福音書 13:24 の物語には、天の国がからし種にたとえられて、その成長について、その大きさについて説明がされていました。そして今日の福音書には、天の国の「価値」について説明がされています。

みなさんは「価値」がどのような意味の言葉かわかりますか？ここに集まったみんなの中でマクドナルドに行ったことのない人はいますか？だいたい、みんな言った事がありますね、ではみんなはマクドナルドでどのようなメニューを注文しますか？それは「バリューセット」というメニューではありませんか？そうです、この「バリュー」という言葉が「価値」です。バリューセットとはお得なセットと訳すこともできますが、価値のあるセットという言葉の方が正確な訳でしょう。「価値」を国語辞典で調べてみると、「役に立つ」とか「値打ちのある」、「善きもの・望ましいもの」「本当の」「善い」「美しい」などの意味を持つそうです。

今日の聖書には、天の国は、ある人が自分の持っているものを全て売り払ってでも手に入れてもおおしくないほど価値があるものである、役に立つ、値打ちのある、善きもの、望ましいものであると言います。また真珠を売り買いする商人が、自分の持っている持ち物、もちろん売り物の真珠も含めて、それら全てを売り払ってでも手に入れてもおおしくないほどの価値のあるものだと言います。

みなさん、自分が持っているもので一番値打ちのあるもの、大切な宝物を思い浮かべてみてください。その宝物は、他の全ての者がなくなってもいいほど大切なものですか？これまでためたお年玉やおこずかい、おもちゃやゲームなどをすべて無くなっても良いと思うほど大切なものですか？

でも、イエス様は「天の国」は、みんなが持っている宝物やお年玉やおもちゃよりももっと価値のあるものだとおっしゃります。私たちがそれを見つけると、きっと全てのものを売り払ってでも手に入れたくなるようなものだとか…。

そんなに素敵な宝物（天の国）を神さまは私たちに用意してくれています。私たちは毎日宝探しをしているようなものです。もちろん、宝の地図は聖書です。でも、他の宝探しと少し違うのは、その宝は必ず見つかるということです。まだ見ぬ宝を思い浮かべながら、よく聖書をよみ、来るべき喜びに、宝の発見にそなえましょう。

★分級への展開

さんびしよ

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 102番
- 改訂版6番

やってみよう

- 宝探しをしよう！

宝探しの後で、振り返りをしましょう。

宝を見つけた時にどんな気持ちになったかを話し合ってみましょう。

そのことから、神様、イエス様に出会った人、癒された人、救われた人の気持ちや喜びを想像してみましょう。

<宝探し/方法1>

- ①二つのグループに分かれる。
- ②それぞれのグループで、宝ものを作り、どこかに隠す。
- ③隠し場所の地図を作る。
- ④別のグループがその地図を見ながら、宝を探す。
- ⑤終わったら、必ずみんなで振り返りをしましょう。

<宝探し/方法2>

用意するもの・・・使い古しの割り箸（または棒アイスの棒、楊枝など）をたくさん

- ①割り箸をいろんな場所に隠す。
- ②「割り箸を△本集めたら、○○が一個もらえる。」というように決めておく。（例えば、5本集めたらお菓子一個もらえる、など）低学年と高学年で探す本数を別にしてもいいです。
- ③子ども達は一斉に探して、あとで何かと引き換えてもらう。
- ④終わったら、必ずみんなで振り返りをしましょう。

はなそう

- あなたにとって、「みつけたら、他のものを全部売り払ってそれを買う」ものとは、どんなものですか？考えてみましょう。
- 13章47節-50節や36節-43節を読んでみましょう。イエスさまは、天の国についてこのように厳しいことも話されました。天の国のことが分かっている人と、全く知らない人の人生にはどんな違いがあると思いますか？

★今週の聖句

「すべての人が食べて満腹した。」

マタイによる福音書 14:20

★ねらい

- ① 常識では考えられない5つのパンと2匹の魚がイエスさまの祝福によって5千人
- ② 以上の人を満腹させることができたことから、私たちの持つ小さな賜物もイエス
- ③ さまに朱行く服される事によって大きな働きに変えられることを学ぶ

★説教作成のヒント

- ・ヨハネによる福音書ではこのパンと魚を提供したのが一人の少年であったことが記されている。子どもが自分の食べ物を差し出した事を取りあげて子どもたちの興味をもたせたい。

★豆知識

「男が」…男だけで5千人、と書かれている様に当時は女や子どもは数のうちに入っていなかった。

★説教

※はじめに小さなパンを5つ用意しておく。

イエスさまはお話がとても上手でした。そのころユダヤの国で聖書のお話をするのは沢山聖書のことを勉強した律法学者さんでした。でも律法学者さんたちは自分たちがとっても沢山勉強をしていたので難しいお話をしていました。でもイエスさまのお話はとてもやさしくてわかりやすく面白かったので一度でもイエスさまのお話を聞いた人はもっともっと聞きたくなってイエスさまが行かれる所にどこまでもついて行って「もっと お話をして下さい」とお願いをしました。男の人だけでなくおじいさんも、おばあさんも、女の人も子どもたちも、みんなイエスさまのお話をきくためにイエスさまを追いかけて行ったのです。

この日、イエスさまは舟に乗って街からはなれたところに行かれた、と書いてありますが沢山の人たちは歩いてイエスさまを追いかけて行きました。イエスさまはその人たちを見て舟からあがって病気の人たちを治してあげたのです。もう夕暮れになりましたからお弟子さんたちはイエスさまに「もう日がくれてきました。みんなを帰らせて下さい。そうしたらじぶんたちで食べ物を買って行くでしょうから」と言いました。でもイエスさまは「みんなを帰らせなくてもいいです。あなたたちがみんなの食事を用意しなさい」と言われたんですね。村から遠く離れたところで廻りにはお店もありません。こんなに沢山の人たちが食べるパンはどこにも売っていません。お弟子さんたちはすっかり困ってしまいました。その時、一人の男の子がお弟子さんに「僕のお弁当をみんなに分けてあげて」と5つのパンと2匹の魚をだしてくれました。でも5000人の人に5個のパンをどうして分けたいのでしょうか。1個のパンを1000に分けるって、みんなどうしたら良いと思う？

1個のパンを10に分けるならわかるよね。100にわけるとなるともう難しいでしょう。

お弟子さんは「イエスさま、ここには5つのパンと2匹の魚しかありません」と言いました。イエスさまは「ここに持ってきなさい」と言われてみんなを草の上に座らせました。

お弟子さんたちは男の子がくれたパンとお魚をイエスさまの所に持って来るとイエスさまは天をむいて神様を賛美するお祈りをされました。それからそのパンをちぎってお弟子さんに渡してみんなに分ける様に言われたんです。お魚も同じ様にされました。

お弟子さんは沢山の人にパンを分けてあげてなくなるとまたイエスさまのところに貰いにきます。イエスさまは次々にパンを裂いて(ちぎって)みんなに分けてくださいました。みんなはもうこれ以上食べられない、と思うくらいお腹が一杯になるまで食べました。残ったパンを集めると12の籠に一杯になった、と聖書に書いてあります。

今日読んだマタイによる福音書には書いてありませんがヨハネによる福音書には男の子がパンとお魚をお弟子さんに渡した、と書いてあります。みんなだったらこんな時、自分のお弁当をみんなに分けてあげようと思うかな?こんな小さなパンだよ、ちょっと分けてみようか(ちぎってみんなに少しずつ分けて行く)こんな少しではお腹がふくれないよね。

だから黙っていてあとで自分だけで食べよう、ともうかも知れないね。だってこんな小さなパンだけでは何の焼くにも立たないもんね。でもイエス様が祝福して下さった時、このパンは沢山の人たちがお腹一杯食べられました。これはパンのことだけではありません。

みんなはまだ小さい子どもで何も役にたたないとおもっているかもしれませんが自分の持っている力を人のために使いたいと一生懸命に思った時にイエスさまはその気持ちと力を祝福して沢山のお仕事をさせて下さるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

104番

改訂版 21番

やってみよう

パンを作って、みんなで分け合って食べよう！

薄焼きパン 6枚分

<材料>

強力粉 200g

塩 ひとつまみ

ぬるま湯 大さじ7

オリーブオイル 大さじ1

①ボウルに材料を全部入れ、混ぜる。

②混ざったら、台の上に出してこねる。生地がかたければ、ぬるま湯を少しずつ加えながらこねる。

③生地が全体になめらかになったら、ラップに包んで、30分休ませる。

④生地を6等分して、棒で薄く丸くのばす。

⑤フライパンに油をしかず、中火で、両面を軽く焼いたら出来上がり。

☆パンに野菜やツナ等を巻いたり、トマト味やカレー味のソースをつけたりしてもおいしいです。

はなそう

群衆たちは、それぞれどんな気持ちでイエスさまの後を追っていたのでしょうか？想像してみましょう。

夕暮れになっても、お腹がすいても、イエスさまのもとから家へ戻っていかなかった群衆の気持ちを想像してみましょう。人々は、何を求めていたのでしょうか？

主のもとで、私たちには何も欠けることがないことが、この聖書の箇所を通して見えてきます。そのことは、あなたの人生にとってどんな意味を持つと思いますか？

★今週の聖句

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

マタイによる福音書 14:31

★ねらい

- ① 弟子たちの事態が良い方向に向かうのは全てイエス様の「言葉」による。
- ② 弟子たちの恐れを自分たちの恐れに重ね、その恐れを取り除き、それを上回る喜びがあることを伝える。

★説教作成のヒント

・ペトロが湖を歩いたということよりも、その行為がどのようなきっかけで起こったかということに注意を払う。

★豆知識

「スタディオン」…1スタディオン=185メートル。

「夜明け前」…直訳では「第四不寝番の勤務時間」。午前3時から6時の間。

…「夕方」から「夜明け前」まで、弟子たちは暗闇の中を航海する。

この暗闇は「罪のシンボル」でもあり、私たちの「困難」や「弱さ」をあらわすものかもしれない。

★説教

みなさんはお化け屋敷に行ったことがありますか？

怖かった人？（そうですね、怖くない人も中にはいますね）

では怖かった人に質問です。なぜ怖いと思いましたか？

（色んな意見を聞きましょう）

そうですね、色んな理由がありましたね。

真っ暗だから。おばけがでるから。先に何があるかわからないから。

私たちは色んなときに「怖く」なります。お化け屋敷に行ったときもそうですし、一人でお留守番をするとき、真っ暗な夜の道を一人で歩くとき、大変な事件や事故に巻き込まれてしまったとき、私たちは不安になったり怖くなったりします。また、そんな時、後ろから声をかけられたら、それがたとえお父さんやお母さんだったとしても、びっくりするのではないのでしょうか？

今日の聖書に出てきたお弟子さんたちもそうでした。イエス様のお弟子さんたちの中には、昔漁師をしていた人が何人かいたので、船に乗るのは得意のはずなのですが、お弟子さんたちは逆風（かぜ）に邪魔をされてなかなか思い通りに進むことができないでいました。夜明け前であたりはだんだん明るくなってきましたが、まだまだ真っ暗です。「船が沈没したらどうしよう」「おばけがでたらどうしよう」お弟子さんたちはだんだん怖くなってきました。

「ぎゃあ〜！」「出たあ〜」（大きな声で）

お弟子さんたちは、水の上をイエス様が歩いているのを見つけて、てっきりおばけがでたのかと思って大声で叫びました。みんなが大騒ぎしてる中、イエス様は一言、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」とおっしゃってくださいました。

するとどうでしょう、あんなに怖かったのに、みんなちっとも怖くなくなりました。風に揺れる中でも、真っ暗でも、イエス様の一言で、それまでの不安や恐れがなくなったのです。

みんなとっても喜びました。お弟子さんのペトロさんは、水の上を歩きたかったのではなく、一時も早くイエス様のところに行きたかったのでしょう。「あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください」と水の上のイエス様に言いました。するとイエス様は、ここでも一言、「来なさい」とおっしゃいました。

その声を聞いて、ペトロさんは船を降り水の上に立ちイエス様の方に向かいました。ペトロさんは、怖くなった途端に水に沈みイエス様に助けてもらいましたが、確かに水の上を歩きました。

怖くなったお弟子さんたちを安心させ、喜ばせたのも、ペトロさんを水の上で歩かせたのも、どちらもイエス様のお言葉でした。イエス様のお言葉は、お弟子さんたちを助けるだけでなく、イエス様を信じる色んな人を助け、安心させ、励ましてくださいます。もちろん、時には叱ります。たとえどんなに怖くても、不安でも、恐ろしくても、私たちはイエス様の言葉によって安心して、力づけられるのです。

怖いとき、不安なときはもちろん、嬉しいときも楽しいときも、イエス様の言葉を思い出しましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

118番

改訂版131番

やってみよう

信じて進もうゲーム

<アイデア1>

用意するもの・・・板、ボール、目隠し用のハンカチやタオル

①二人でペアになって、一人は目隠しする。

②目隠しした人は、板の上にボールをのせて、決められた所まで歩く。

同じペアの人は、目隠しした人がボールを落とさずにうまく歩けるように、声をかけながら導く。

③できたら、役割を交代してやってみる。

④終わったら、必ず振り返りをしましょう。どんな気持ちだったかとか、信じて進むことはどんなことが難しかったかなど。

<アイデア2>

用意するもの・・・目隠し用のハンカチやタオル

①二人でペアになって、一人は目隠しする。

②目隠しした人は決められた所まで後ろ向きに歩く。同じペアの人は、目隠しした人がうまく歩けるように声をかけながら導く。

③できたら、役割を交代してやってみる。

④終わったら、必ず振り返りをしましょう。どんな気持ちだったかとか、信じて進むことはどんなことが難しかったかなど。

はなそう

舟に乗った弟子たちは、逆風のために波に悩まされていました。この時の弟子たちの気持ちを想像してみましよう。

14章30節でペトロは怖くなって、イエスさまに助けを求めました。あなたは、イエスさまがいると分かっているのに、怖くなったり、不安になったりしたことがありますか？みんなで、そのことについて話してみましよう。

どんなときも、イエスさまは私たちとともにいて守ってくださいます。そのことを聞いて、あなたはどんな気持ちになりましたか？